



青くすみわたる大空のもとで

走る

五百人の足音が一つになって

走る

タツ タツ タツ

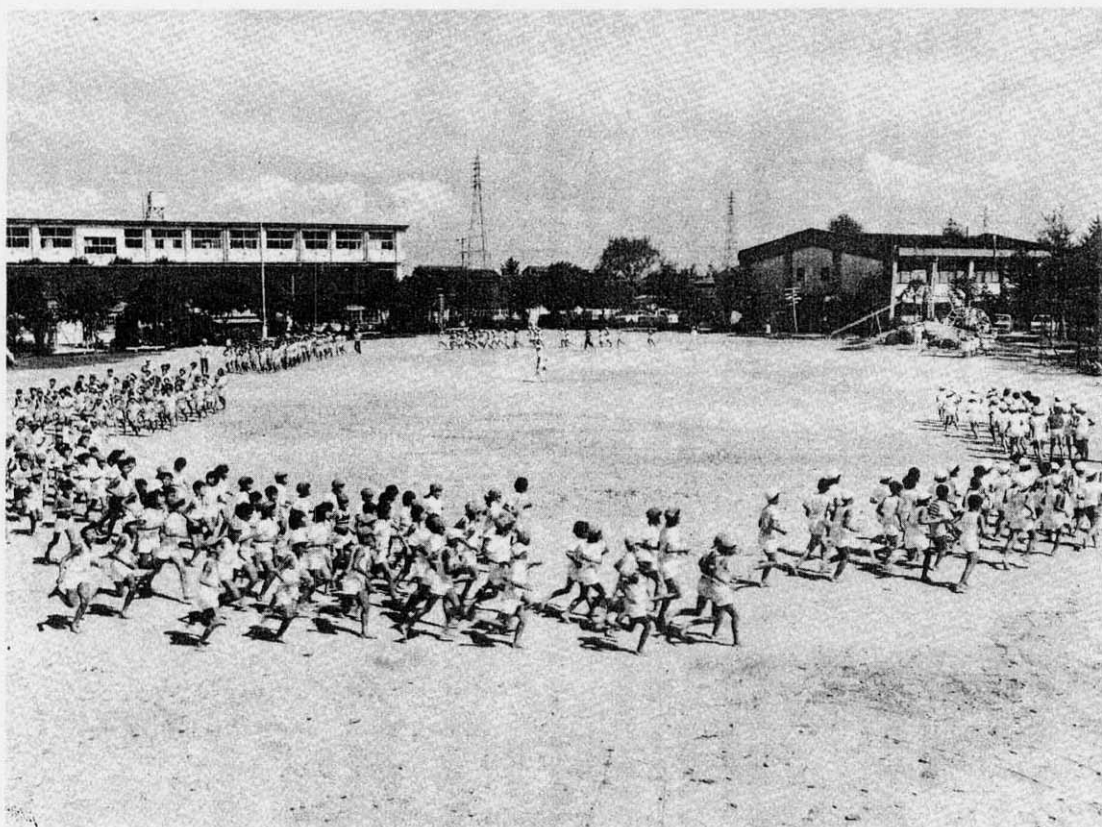
元気な足音が

空にひびきわたる

暑さなんかには負けられないぞ

寒さなんかには負けられないぞ

昭和52年10月1日 / 編集・発行 / 岡崎市教育委員会



(走りつづけてもう7年 - 六ツ美南部小)

教育随想

正義感と公教育

飯田芳郎

NHKの大河ドラマ「花神」が好評である。作がその原作（司馬遼太郎作）を買ってきて「面白い」というので、借りて読んだが、確かに面白かった。

物語りの筋も面白かったが、その背景にある作者の史観といったものに考えさせられるところが少なくなかった。その一つであるが、「正義」というのは、人間が人間社会を維持しようとして生み出したもつとも偉大な虚構といえるかもしれない（原文のまま。以下同じ）という叙述に興を引かれた。

作者の主張では、「明治以前までの日本人の歴史は、巨大な虚構をほとんど受け入れることなくして進行し」たが、長州人だけは別で、「正義好き」という「同時代の他の日本人とくらべて、きわだった癖」を持っており、その代表的存在が吉田松陰だった、ということになる。

吉田松陰と言えば、私は直ちに松下村塾の教育を思わずにはいられない。確か



に松陰は、正義感の権化とも称すべき人物であり、尊皇愛国を最高の正義と考え、誠心誠意その正義の実現を目指して、弟子たちを教導するとともに、自らもそれに粉骨砕身し、ついにはそのために自己の生命をも奪われた人と称して誤りではあるまい。

その正義を、「花神」の作者は「偉大な虚構」と断るのである。恐らく作者は、何を正義と見るかが、時代によって、国によって、そして人によって異なるところをもつて、正義を虚構と断じたものであろう。そこには、冷徹な一つの史観が光っている、と評し得ないこともあるまい。

正義とは、字義どおりに言えば、不正の反対である。心ある人で、不正を憎まない者はいないであろう。正義のために立って活躍するほど痛快なことはなく、それは、特に青年時代の行動の顕著な特色だと言つてよい。

しかし、やっかいなことに、正義の道は一つではない。そして、そのことが最も顕著に出てくるのは、いわゆる政治問題についての見解に關してである。

ところで、教育は、そして教師は、どのような問題に対してどうあるべきであらうか。——私の思念は、何を讀んでも、結局はそこに帰着してしまふ。

教師も市民の一人であるから、その意味での私生活の問題は、ここでは問うまい。しかし、児童・生徒を対象とする具体的な教育の場での、これらの問題についての教師の態度や実践ほど重要なものはあるまい。なぜならば、それは、彼らに影響して、ときにはその将来を決定付けるほどの意味を持つからである。

残念ながら、公教育の場には多くの制約が存する。確かに民主主義体制下の国民の政治的意識は多様であり、その多様な考えを持つ父母の子弟を預かる公教育では、教師の信ずる正義感に基づく政治的教育は拒否されている。ある意味では、公教育下の教師は、この問題に關する限り、自己の信ずる正義感を言わば去勢されてしまったような立場にある、と評することもできよう。

それにつけても、師の人格とその識見を慕つて集まつた者を対象として、自分の信ずるところを自由に教育した「松下村塾の指導者」の立場は、今にして思えば、気楽なものだつたんだなあ、と一種の羨望感を覚えずにはいられない。

（東京学芸大学教授）

某校某日

隣のクラス

細江永子

今日は七組のM先生が午後から出張なので、担任のない私が七組の帰りの会へ行くことになった。

廊下を歩いて教室へ行く途中、子どもたちの元気の良い騒ぎ声が聞こえてくる。教室へはいると、M先生の出張を知っているのだろうか？子どもたちは私を見ても一向に気にせず相変わらず席を立ったり、けんかをしたり、……………

「あんたたちねえ……。あんたたちね」
私はいよいよ加減にしないといばかりお説教をしてみました。そして、やつと日直が帰りの会を始めた。

その時である。隣のクラスのS先生が教室にみえた。何か用事かな、と思つて聞こうとした。が、声が出なかった。子供たちの顔をよく見てみる。違う！7組の前でS先生の机にずうずうしくすわつているのだ。子供たちは私に何もいわずにお説教を聞いていたのだ。みっともないやら恥しいやら、失礼をわびて、

自然

謎の塩基性岩



少年自然の家シリーズV

秦梨町から小美町にかけて、岡崎ではめずらしい、まっ黒な岩石があります。

少年自然の家付近は、ほとんどこの黒い岩でできています。飯ごう炊飯の炉に使っている岩も、ハイキングコースの路傍に転がっている岩も、割ってみると中はみんなまっ黒いつらつきの岩石です。管理棟の下の岩組みでじっくり観察することができます。

この黒っぽい岩石は、昔から石英黒雲母閃緑岩と呼ばれてきました。閃緑岩と言えば、ああ、そうかとうなずかれる方もあると思いますが、実はこの「閃緑岩」という呼び名がくせ者であり、謎を含んでいるのです。

岡崎特産の灯籠や墓石に使われている花崗岩は、白っぽくて、ごま塩をふりか

けたにぎりめしのようなのです。この黒ごまに相当する黒雲母（や角閃石）を含む割合が多くなるほど岩石は黒っぽくなり、その名も花崗閃緑岩、石英閃緑岩、閃緑岩とかわります。これは、岩石に含まれる鉄やマグネシウムの割合が多くなるからで、このような黒い岩石を総称して塩基性岩と呼んでいます。

花崗岩や閃緑岩は、地下深くで、マグマが徐々に冷え固まってできた岩石だと言われています。岡崎の花崗岩でも、あちこちの露頭で、かつては高温液状のマグマであったことを示す証拠を見つけることができます。ところが、この通称「閃緑岩」には、火成岩というより変成岩ではないかと考えざるを得ないような事実も、次々と見つかって来ているのです。

まず、場所によって岩相や岩質がずいぶん違います。少年自然の家付近のものは最も色が黒く、岩相の変化が少なく識別は容易ですが、一般には花崗岩そっくりだったり、領家片麻岩に似ていたり、特に風化しているところでは識別が容易ではありません。それに、花崗岩と複雑に入り組んで、俗っぽく言うなら「とろけ合っている」とでもいうような関係のところも少なくありません。そのよい例が、秦梨小学校の西の河原です。友久橋の下の露頭では、花崗岩と閃緑岩と片麻岩が入りまじって複雑な模様をつくっています。

私たちはこれまで安易にこの岩石を閃緑岩と呼んでいましたが、もし変成岩な

ら、閃緑岩という呼び名はふさわしくないと 생각합니다。私たち地学サークルの間は、この塩基性岩がどうやってできたかを調べてみよう、と、野外観察の巡検を始めてもう九回も回数を重ねましたが、調査を度重ねるにつれて謎は深まる一方で、ひとすじ縄では解決できないということだけがわかったというのが実情です。地質を知るには念入りな野外調査が必要で、野外の観察をあいまいにして化学分析や顕微鏡観察をしてもだめです。なおさら、文献をいくらあさっても、新しいことがらは何もわかりません。このことは、教育実践にも通じると思っています。子どもとのふれあいをおろそかにして理論をもてあそんだり機械化をすすめることは、教育の危機へとつながるのではないかと感じています。

(六ツ美中部小 坂本英二)



由良苑付近の乙川河床一ほとんど塩基性岩の転石

すぐ隣の教室へとび込んだ。もうお説教はしなかった。(岩津中)

ある事件

石川 春次

「あまりにひどく、がまんできないので電話します。きのう、うちの子が靴を持ってしよんぼり帰ってきたので、どうしたのか聞いてみると、上靴をぼろぼろにされて運動場にはかかってあったのと、いたずらにはひどすぎるんじゃないですか。」——早期から電話をしてきたおかささんの権幕に、私はただおろろするばかり。昨日職員会で聞いた「無事故だった夏休みが何よりうれしい。二学期もこの調子でがんばろう。」の学校長からの一言が、一日経た今日は何とも耳に痛い。

早速犯人逮捕に乗り出した。まず学級で事件のあらましを話した。するとどうだろう。ぼくも！「わたしも！」と被害者がわんさかいるではないか。犯人逮捕の意気込みは、頭をかかえる結果となつてしまった。

ところが、被害にあった靴の山を前につくりしていると、突然A先生の「こんなにややがったのか。」の言。「先生は犯人を……」。「犯人は犬だよ。プレハブ教室の靴をひっぱり出しているところを見たぞ。」A先生の証言をもとに、犯人ならぬ犯犬を即日逮捕。事件は一転して解決。

(矢作南小)



▲布目瓦と人骨の破片



▲根本中堂の石段



▲高隆寺根本中堂趾の碑



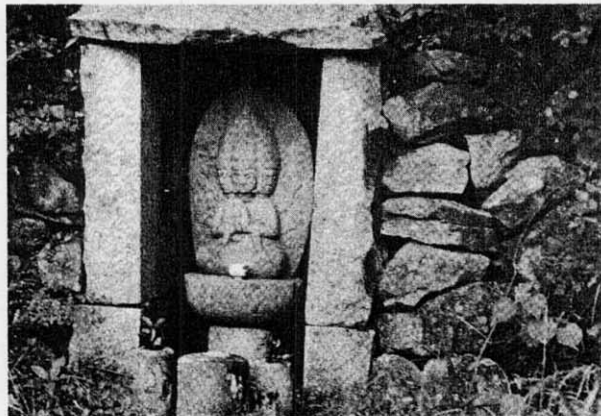
▲峠にひっそり建つ名号石

鎌倉の昔、足利氏執事である高氏は菅生郷・矢作東宿と中山郷を治めていた。領地を結ぶ最短ルートはこの道である。長篠合戦の昔、鳥居強右衛門が夜つびでかけて岡崎の城へ援軍を求めに走ったのもこの道であろうか。
 明治二十五年、現在の県道が改修された。その後も、この道は乙川上流の人たちが街へ出てくるための動脈であった。「はや、わしが子どもの頃まで、たきもんを皆負って日に二往復はしたぞん。茶屋があったか覚えはないが。」
 鍛冶で聞いた老人の話である。



▲茶店趾に建つ名号石

▼往還の終点・鍛冶屋五本松の馬頭観音



▼左すぶちかじやみち・右さいくまくりぎ道



岡崎のむかし話

六北小 長島 かよ子

「ぼくのうちの裏のお宮さんに、犬のしっぽが飛んで来たのよ。」

「そう、ケンビってどんな字書くのを見てきてください。それからMさん、あなたの家の近くのケントウ神社もね。」
 そんな会話のあった翌朝。MとKは、得意げにいつもよりしつかりした字で黒板に書いた。

犬頭神社

凡人にできること

甲山中 竹内 正和

ずしりと重いブロンズの優勝杯をしっかりと両腕に支えた時、僕は何を考えるべきだったろうか。何か言葉では言い尽せない熱いものを生徒の中に感じた。今さっきまでキリキリ痛んでいた胃の存在を忘れたことを覚えている。

本校のプールは、昭和二十八年設置、市内最古のものと聞いている。二十五メートル五コー

犬尾神社

「あれ、両方とも『犬』がつくんじゃん。」

Oの大きなつぶやきに、教室中がざわめく。そのざわめきを制しながら「尾」の字の説明をする。

「犬の頭としっぽかあ。なんでそんな名前がついたの。」
 Nの発言を待ってましたとばかり新聞の切れ端を取り出して読む。私の組の子ども達は、物語を読んでもらうのがすきだ。それにもまして、自分たちの身

教育日々



ス。深き臍程度、誠に愛すべきしる物ながら、水圧不足、亀裂繁殖、雨天の度にモーターストップ等々、なかなか手のかかるものである。

そんなプールではあるけれど、頭の芯まで凍ってしまいそうな頃から、太陽がいつぱいの最近まで、文句ひとついわず、生徒を見守ってくれたのである。

某月某日、七時十五分集合、プール五十メートル五回、キック二百メートル二回、スプリント十回、



近かな話ときては、目を輝かさない者はない。
 最後に、「著者ナガシマカヨコ」と何げない声で付け加えた。とたん、

「あ、先生が書いた話だ。新聞に載ったの。」

「先生、その話ほんとにあつた話なの。」

また二度めのわいわいがやがや、それから数日後、矢作の「犬頭の糸」の話を読んできかせた。

「先生の書いた話『犬』がよく出てくるねえ。」
 と言う。そこで今度は、「馬」の出てくる話をする約束。坂左

右の地藏堂由来」の話を読んできかせる。子供を対象に書いてないので三年生の子には少し難解かと思つたが、そのまま読むと、それでも。

「おもしろいねえ。先生。」

と言つてくれた。岡崎の地図模型を持って来て、この辺の話かと尋ねる子もいて、話は尽きない。

岡崎に育つた私ではないが、民話を調べていくうちに、岡崎が郷土として根付いてくるのを感じる。

「子供たちにも……………」
 と願いつつ、私はまたむかし話を探索しようと思うのである。

昼、スタート・ターン・タック十セット、

午後、アップ四百メートル、PKC、インターバル百メートル十回、五十メートル四十回、ダッシュ二十回、……………。

「ヨイ、ゴー。」「三十八秒六。」「プルのまとめがあまりい。」
 「ヨイ、ゴー……………」

スポーツタイマーへ全神経を集中させながら、一回一回、全力で泳ぎきろうとする生徒の気迫・姿勢が、練習量の不足分をどれほどまで、補ってくれたのだろうか。



えながら、歌を心でうたい、時には絵を描き、食事のことを思い浮かべたりして、それぞれ工夫をこらして耐えてきた。
 千五百メートル自由型は、およそ二十分近くかかる。時計の針のような正確さでラップするためには、どれほどの練習が必要だろうか。記録を樹立するためには、どれほど肉体と精神を鍛えれば、よいだろうか。
 立派なことのできない凡人にとつて、ただひとつできること。それは、ひたすらプールへ駆けて行くことである。それしかない、あらためて心に誓う。



ウスエキソウ キク科

歩みはじめた 市史編さん事業

1 五十年ぶりの編さん事業

地方史として全国に高く評価される『岡崎市史全八巻・別巻三巻』の刊行以来、灯を消していたこの事業が、内田市長のご熱意と市議会のご理解によって市制施行六十周年を記念して点火され、この四月よりたくましく歩みはじめた。

二ヶ月にわたる諸準備を終わり、六月に七名の編集委員、七月に四十四名の調査委員が委嘱され、この夏休みよりすでに二十回にわたる、各班の史料調査研究会が実施されている。

さらに、九月十三日市長を会長とする編さん委員会が発足し十年間にわたる「新編岡崎市史編さん計画」が承認された。

2 市史編さん計画のあらまし

【寄贈刊行物・資料等】 ◇この一冊・第14集

梅園小現職教育委員会編 教職員の間読書遍歴中に心に残った「この一冊」について本との出合いや思索の移り変わりを述べる。年輪を経た重みのある一書である。B6判六六頁

◇城北つうしん 16集

城北中学校編 開校十五周年記念特輯を含め三六号の年間学校通信の総集編。学校が歩んだ貴重な記録であり編纂子の心血が行間にはれる学校新聞といえる。A5判四二頁

○その目あて

現在の歴史研究等の成果を駆使して、市民のための市史を編集すると共に、市の歴史を語る貴重な史料・資料を収集して散逸を防いで次代へ継承し、あわせて市の発展を願う市民意識が一層高まることを目指す。

○その特色

●薫風や 一眸の山河 史を語る (撫琴)

● 蕪風や 一眸の山河 史を語る (撫琴)

● 蕪風や

● 蕪風や 一眸の山河 史を語る (撫琴)

史の解明を進める。

● 『市史八巻』にない近代・現代や・民俗・文化財・自然の新しい調査と研究を進める。

● 本編と共に、将来のため資料編を編集刊行する。

○その構成・期間

● 本編は全七巻で・通史(原始古代・中世・近世・現代)別巻(民俗・自然)を予定している。

● 資料編は全九巻(原始古代・中世・近世2・近代2・現代・民族・文化財)を予定している。

● 期間は、市制施行七十周年(昭和六十一年)までを目あてに調査・編集・刊行の業務を進め昭和五十七年度より逐次出版頒布の予定である。

3 市史編さんに理解と協力を

○ 一片の土器・一枚の古文書から歴史が開かれる。学区にある史料等の発見と、編さん事務局へのご連絡方をぜひお願いしたい。

『学校体育賞』受賞者決まる

岡崎南ロータリークラブ(岡田一秀会長)からの基金で、年度内に市・県の各校体育競技会等で活躍した個人・団体を表彰する五十二年度「学校体育賞」の受賞者が決った。中学校は二十三日の新人体育大会で、小学校は三十日の陸上競技大会でそれぞれ表彰を行う。受賞者(敬称略)は次のとおり。

〔中学校〕▼甲山中水泳部男子
▼矢作中軟式庭球部女子

▼甲山・川澄一夫(水泳男百M平) 角谷守彦(水泳男百Mバタ) 木村喜明、川澄一夫、角谷守彦、近藤聖一(水泳男四百Mメドレー) 監督竹内正和▼竜海加藤靖、(水泳男百M背) 監督寛定▼岩津、大崎浩孝、(陸上男砲丸投) 監督佐伯友之▼矢作石津隆志、(水泳男二百M平) 監督牧野重彦※以上団体個人ともに県中学総体で優勝したのも。

〔小学校〕▼岩津小現職教育体育部(全国学校保健体育優良表彰校)▼井田小水泳部男子▼同女子▼矢作南小ソフトボール部男子▼広幡小ソフトボール部女子▼大樹寺小バレー部男子▼岡崎小バレー部女子▼岩津小バスケットボール部男子▼愛宕小バ

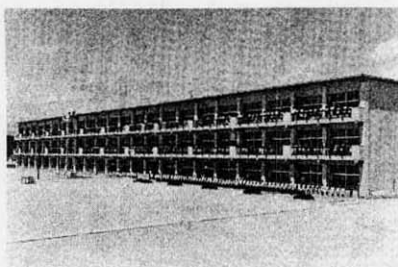
スケットボール部女子▼根石小サッカー部男子※以上はいずれも市内大会での優勝。陸上男子：女子は三十日の陸上競技大会の結果による。

■十月の研究発表校

十月十二日▼愛宕小・竜海中
▼会場▼連尺小・城北中▼主題
II 学習意欲を高め、自ら学ぶ力を培うために放送による学習のあり方とその効果を確かめよう。
十月二十一日▼大門小▼主題
II 生き生きと活動する大門っ子の育成をめざして。

■城南小学校舎第二期工事完工
残暑厳しい九月一日、城南小の第二期校舎新築工事が完工した。

建物延面積、鉄筋三階建(普通教室七・特別教室五・管理諸室その他十四)



完工した城南小学校

